

Oxford Reading Tree Level 6 More Stories A

- ① A Fright in the Night 「夜の恐怖」
- ② Mirror island 「鏡の島」
- ③ The Laughing Princess 「笑うお姫様」
- ④ Christmas Adventure 「クリスマスの冒険」
- ⑤ The Go-kart Race 「ゴーカート・レース」
- ⑥ The Shiny Key 「ピカピカの鍵」

A Fright in the Night 「夜の恐怖」

- PG 1: Biff and Chip went to stay with Gran.
They went to stay for a week.
“Be good,” called Mum.
“Don’t worry” said Gran. “I will”
ビフとチップはおばあちゃんの所へ泊まりに行きました。
二人は一週間滞在しました。
「お行儀よくしてるのよ」とママが言いました。
「心配しないで」とおばあちゃんが言いました。「お行儀よくしてるよ」
- PG 2: Gran’s house was small. It had two bedrooms. Biff and Chip had to sleep in the same bedroom.
おばあちゃんの家は小さな家でした。寝室は二つです。
ビフとチップは、同じ寝室で寝なければなりませんでした。
- PG 3: Biff wanted the bed by the door. Chip wanted the bed by the window.
“That’s good,” said Gran.
ビフはドアのそばのベッドで寝たがりました。
チップは窓のそばのベッドで寝たがりました。
「それは良かった」おばあちゃんが言いました。
- PG 4: Gran took Biff and Chip for a walk. They went to the woods.
Biff saw some blackberries. She wanted to pick some.
おばあちゃんはビフとチップを散歩に連れて行きました。
みんなは森へ行きました。
ビフはブラックベリーを見つけました。いくつか摘みたいと思いました。
- PG 5: Gran had some plastic bags. She gave one to Biff and Chip.
“We can make some blackberry jam,” she said.
おばあちゃんはビニール袋を持っていました。おばあちゃんは、その袋を一枚、ビフとチップに渡しました。
「ブラックベリージャムを作ろうかね」おばあちゃんが言いました。
- PG 6: Gran made the blackberry jam. Biff and Chip helped.
Chip made some labels and Biff licked the spoon.
おばあちゃんはブラックベリージャムを作りました。ビフとチッ

プも手伝いました。チップはラベルを作り、ビフはスプーンをなめました。

- PG 7: They made nine jars of jam.
“You can take a jar home for Kipper,” said Gran.
“And a jar for Wilf and Wilma.”
ジャムの壺が九つできました。
「キッパーに一つ持って帰ってね」おばあちゃんが言いました。
「そして、ウィルフとウィルマにも一つ」
- PG 8: The children loved Gran’s house. It was very old.
It had a big fireplace. Biff helped Gran light the fire.
子どもたちは、おばあちゃんの家が大好きでした。それはとても古い家でした。大きな暖炉がありました。ビフはおばあちゃんが火をつけるのを手伝いました。
- PG 9: Chip helped Gran get some logs.
“Do you have ghosts?” he asked. Gran laughed.
“There are no such things,” she said.
チップはおばあちゃんが丸太を取りに行くのを手伝いました。
「ここに幽霊はいる？」チップがたずねました。おばあちゃんは笑いました。
「そんなもの、いないよ」おばあちゃんは言いました。
- PG 10: They sat by the fire. Gran made some toast. Biff wanted to try the new jam.
“It’s still too hot,” said Gran.
みんなは暖炉のそばに座りました。おばあちゃんはトーストを焼きました。ビフは新しいジャムを試してみたいと思いました。
「まだ、熱すぎるよ」とおばあちゃんが言いました。
- PG 11: Chip had a new game. It was called Haunted House.
“Can we play Haunted House, before we go to bed?” he asked.
チップは新しいゲームを持っていました。『幽霊屋敷』という名前のゲームです。
「ベッドに入る前に『幽霊屋敷』で遊んでもいい？」チップがたずねました。
- PG 12: It was time for bed. Gran got Chip a hot water bottle.
“Is the house haunted?” asked Biff.
寝る時間になりました。おばあちゃんはチップに湯たんぽを用意してあげました。

「この家には幽霊が出るの?」と、ビフが聞きました。

- PG 13: “Don’t worry,” laughed Gran.
“I don’t have ghosts in my house. There are no such things”
「心配しないで」とおばあちゃんが笑いました。
「私の家には幽霊なんていないわ。そんなもの、存在しないのよ」
- PG 14: Biff and Chip couldn’t sleep. Biff had an idea. She wanted to play a joke on Chip. She had a torch in the bed.
ビフとチップは眠れませんでした。ビフはあることを思いつきました。ビフはチップにいたずらを仕掛けようと思いました。そして、懐中電灯をベッドの中に入れました。
- PG 15: Biff put the sheet over her head. She switched on the torch. The sheet glowed.
“Whoooooo! I am a ghost,” said Biff.
ビフは頭からシーツをかぶり、懐中電灯をつけました。シーツが光りました。
「う———！ 幽霊だぞう」ビフは言いました。
- PG 16: Chip laughed. He wasn’t frightened. He pulled the sheet off Biff.
“That was a good joke,” he said.
チップは笑いました。チップは怖がらなかったのです。
チップは、ビフのシーツを引っ張りました。
「愉快ないたずらだったね」とチップは言いました。
- PG 17: Biff and Chip heard a noise. It came from outside.
“Whoooo! Whoooo!” went the noise.
“Oh no!” said Biff. “It’s a ghost.”
ビフとチップに何かの音が聞こえてきました。それは外から聞こえてきました。
「ホー！ ホー！」という音です。
「どうしよう！」とビフが言いました。「幽霊よ」
- PG 18: Chip looked out of the window.
“It’s not a ghost!” he laughed. “It’s an owl. Come and look.”
チップは窓の外を見ました。
「幽霊じゃないよ」チップが笑いました。
「ふくろうだ。来て、見てごらんよ」
- PG 19: Biff and Chip looked outside.
“Oh no!” said Chip. “I can see a ghost. It is a ghost this time.”

ビフとチップは外を見ました。「どうしよう！」チップが言いました。「幽霊が見える。今度はほんとうに幽霊だ」

- PG 20: Biff and Chip ran to Gran's room.
"Gran! Gran!" called Biff. "There's a ghost outside."
But Gran wasn't in bed.
ビフとチップはおばあちゃんの部屋へと走りました。
「おばあちゃん！ おばあちゃん！」とビフが呼びました。
「幽霊が外にいる！」
でも、おばあちゃんはベッドにはいませんでした。
- PG 21: Biff and Chip ran downstairs. "Gran!" called Biff.
"Where are you? We've seen a ghost."
But Gran wasn't downstairs.
ビフとチップは一階へ駆け下りました。「おばあちゃん！」
ビフが呼びました。「どこにいるの？ 私たち幽霊を見たのよ」
でも、おばあちゃんは一階にもいませんでした。
- PG 22: The door opened. Biff and Chip were frightened.
"Oh no!" they said.
Gran came in.
ドアが開きました。ビフとチップは怯えました。
「どうしよう！」と二人は言いました。
おばあちゃんが入って来ました。
- PG 23: "We were frightened," said Chip. "You looked like a ghost."
Gran laughed.
"I'm not a ghost," she said.
「怖かったよ」とチップが言いました。
「おばあちゃんが幽霊に見えたんだ」
おばあちゃんは笑いました。
そして、「私は幽霊じゃないよ」と言いました。
- PG 24: "I don't have ghosts," said Gran. "But I do have two little monsters!"
Gran laughed and so did Biff and Chip.
「幽霊なんて飼ってないよ」と、おばあちゃんは言いました。
「でも2匹の小さな怪獣は飼っているわ！」
おばあちゃんは笑い、ビフとチップも笑いました。

Mirror Island 「鏡の島」

- PG 1: Chip was in his bedroom. He was busy drawing.
“Chip!” Called Biff. “Wilf and Wilma are here!”
チップは寝室にいました。絵をかくのに夢中でした。
「チップ!」とビフが呼びました。「ウィフルとウィルマが来てるわよ」
- PG 2: Chip went downstairs. Chip showed them his drawing. He had made a pattern.
“What is it?” asked Wilf.
チップは一階へ降りて行きました。チップはみんなに自分の絵を見せました。チップは模様のようなものを描いていました。
「それは何？」ウィルフが尋ねました。
- PG 3: “It looks like a word,” said Wilma. “Come up to my room,” said Chip
“Then I can show you.” They went up to Chip’s room.
「言葉のようにみえるわ」をウィルマが言いました。
「僕の部屋においでよ」チップは言いました。「そうしたら、見せてあげる」みんなはチップの部屋に上がって行きました。
- PG 4: Chip put a mirror on the paper. The pattern said “Chip” in mirror writing.
Biff wanted to do some mirror writing but Chip had run out of paper.
チップはその紙の上に鏡を置きました。鏡に映った文字では、その模様は「チップ」と読めました。ビフは鏡文字を書いてみたいと思いましたが、でも、チップはすでに紙を使い切っていました。
- PG 5: Biff went to her room to get some paper. The magic key was glowing. It was time for an adventure. “Come here everybody,” she called.
ビフは紙を取りに自分の部屋に行きました。マジック・キーが光っていました。冒険に出る時間でした。「みんなこっちへ来て」と彼女は呼びました。
- PG 6: The magic took them to an island. “We have been here before.” said Wilma. “We met some pirates,” said Wilf.
魔法の力で子供たちはある島へとやって来ました。「私たち以前にここにきたことがあるわ」ウィルマが言いました。「僕たちはここで海賊たちに出会ったわ」ウィルフが言いました。

- PG 7: Wilma saw some footprints in the sand. "There must be someone on the island," she said. "Oh help!" said Wilf. "There he is."
ウィルマは砂についたいくつかの足跡に気が付きました。「島には誰かいるにちがいないわ」と彼女は言いました。「わあ、助けて！あそこに男の人がいる」ウィルフが言いました。
- PG 8: "He looks fierce," said Biff. "Run for it!" The children began to run. "Stop!" called the man. "Come back!" And he began to cry.
「あの人乱暴そうだわ」ビフが言いました。「逃げよう！」子どもたちは駆け出しました。「待って！」その男の人は声をあげました。「戻ってきてくれ！」そして、泣き始めました。
- PG 9: "Why are you crying?" asked Wilma. "Do I frighten you?" asked the man. "Yes," said Biff. "You look so fierce. You have such long hair."
「どうして泣いているの？」をウィルマが尋ねました。「私は君たちを怖がらせているかい？」とその男の人は尋ねました。「ええ。あなたはとても怖そうに見えるわ。そんなに長い髪をしているんですもの」とビフは言いました。
- PG 10: "I don't look that bad, do I?" asked the man. Chip gave him the mirror. The man looked in it.
「私はそんなにひどくは見えないうらう？」とその男は尋ねました。チップは鏡を差し出しました。その男は鏡を覗き込みました。
- PG 11: "Oh no!" screamed the man. "I look terrible! No wonder you were frightened." He began to cry again.
「ああ何てことだ！」と男は悲鳴をあげました。「私は何てひどい様をしているんだ！君たちが怖がるのも無理はない」彼はふたたび泣き出しました。
- PG 12: "My name is Captain Crow," he said. "I've been alone for ten months and six days. My crew took the ship"
「私の名前はキャプテン・クロウ。10か月と6日の間、たった一人だったんだ。乗組員が船を取って行ってしまったんだ」と彼は言いました。
- PG 13: "Why did they do that?" asked Wilf. "We couldn't find the treasure," said Captain Crow. "They said I was useless."
「何故彼らはそんなことをしたの？」ウィルフが尋ねました。「われわれは宝物を見つける事ができなかったんだ。彼らは私の事を役立つはずと言ったよ。」とキャプテン・クロウは言いました。

- PG 14: Captain Crow had a treasure map. The children looked at it. “It looks odd,” said Captain Crow. “I couldn’t understand it.”
キャプテン・クロウは宝物の地図を持っていました。子どもたちはそれを見ました。「奇妙な地図なんだ。私にはそれが解読できなかった」キャプテン・クロウは言いました。
- PG 15: “Look at these funny words,” said Biff. “What do they mean?”
“I think I understand it,” said Chip. “It’s in mirror writing!”
「このおかしい言葉を見て。どういう意味なのかしら？」ビフは言いました。
「僕わかったと思う」チップが言いました。「鏡文字になっているんだ！」
- PG 16: Chip put the mirror on the map. Captain Crow could read the writing.
“It says, *Here lies the treasure*,” he said. He began to run.
チップは地図の上に鏡を置きました。すると、キャプテン・クロウは書いてある文字を判読できました。『ここに宝物が眠っている』と書いてある」と言いました。そして、駆け出しました。
- PG 17: “Where are you going?” said Biff. “To get my spade!” said Captain Crow.
“Come on!” said Wilma. “It looks as if we have some digging to do.”
「どこへ行くつもりなの？」ビフが言いました。「シャベルを取りに行くのさ！」キャプテン・クロウが言いました。「行きましょう！」ウィルマがいいました。「私たちには掘る仕事があるみたいよ」
- PG 18: Captain Crow looked at the map. “This is the place to dig,” he said.
He dug and dug. Soon he had dug a deep hole.
キャプテン・クロウはその地図を見ました。「ここが掘るべき場所だ」と彼は言いました。彼はどんどん掘りました。間もなく深い穴が掘りあがりました。
- PG 19: At last the spade hit a wooden box. “It’s a big chest,” said Captain Crow.
“Thanks to you and your mirror, I’ve found the treasure!”
ついにシャベルが木の箱に当たりました。「大きな箱だ」とキャプテン・クロウは言いました。
「君たちと君たちの鏡のおかげで、私は宝物を探し当てたよ！」
- PG 20: Captain Crow opened the chest. Everyone gasped. It was full of gold and silver. “Hooray!” shouted Captain Crow. “I’m rich!”
キャプテン・クロウは箱を開けました。全員が息をのみました。それは金と銀でいっぱいでした。「万歳！」キャプテン・クロウは叫びました。「私は大金持ちになったぞ！」

- PG 21: Wilma saw a ship. It was sailing past the island.
“Help! Shouted Captain Crow. “I’m over here. Come and rescue me!”
ウィルマが一艘の船に気付きました。それは島を通り過ぎていこう
としていました。
「助けて！」キャプテン・クロウは叫びました。「私はここにいる。
助けに来てくれ！」
- PG 22: “It can’t see you,” said Wilf. Wilma had a good idea.
“Use the mirror,” she cried. “Flash it at the Ship!”
「船からは、あなたが見えないのです」とウィルフは言いました。
ウィルマがいい考えを思いつきました。「鏡を使って」ウィルマは
叫びました。「その船めがけて光を反射させるのよ！」
- PG 23: The ship flashed back at Captain Crow.
“Now I can leave the island!” he yelled.
“Help me hide the treasure. I will come back for it one day.”
その船はキャプテン・クロウに合図を返してきました。
「やっと私はこの島から出る事ができる！」彼は叫びました。
「宝物を隠すのを手伝ってくれないか。いつかまた取りに戻ってく
るよ」
- PG 24: The magic key began to glow. “It’s time for us to go,” said Biff.
“You can keep the mirror,” said Chip, “to have a shave and a haircut!”
マジック・キーが光り始めました。「さあ私たちも帰る時間よ」
とビフが言いました。
「その鏡は持っていていいですよ。」とチップは言いました。
「髭を剃って髪を切るためにね！」

The Laughing Princess 「笑うお姫様」

- PG 1: Chip had a new book. It was about a princess who couldn't laugh. Nobody could make her laugh.
チップは新しい本を持っていました。それは、笑うことのできないお姫様のお話でした。誰にもお姫様を笑わせることができなかったのです。
- PG 2: Chip had an idea. "Try and make me laugh," he said. Biff made a funny face, but she couldn't make Chip laugh. チップはあることを思いつきました。「ぼくを笑わせてごらん」とチップは言いました。ビフがこっけいな顔をしましたが、チップを笑わせることはできませんでした。
- PG 3: Biff put on a funny wig. She told a funny joke, but she still couldn't make Chip laugh. "It's no good," she said. ビフはおかしなかつらを着けました。そしておかしなジョークを言いましたが、それでもチップを笑わせることはできませんでした。「だめだわ」とビフが言いました。
- PG 4: Kipper had some joke teeth. The joke teeth were new. The teeth went click, click, click. Everyone laughed and laughed. キッパーがおもちゃの歯を持って来ました。新品です。歯はカチカチカチと音を立てました。みんなは大笑いしました。
- PG 5: The magic key began to glow. The children ran into Biff's room. The magic took them on a new adventure. マジックキーが光り始めました。子どもたちはビフの部屋へ駆け込みました。魔法の力は、みんなを新しい冒険に連れて行きました。
- PG 6: The children were in a village. They saw a notice on a tree. It was about a princess who couldn't laugh. 子どもたちは、ある村にいました。みんなは木にお触れ書きが貼られているのを見つけました。それは、笑えないお姫様についてのお触れ書きでした。
- PG 7: Kipper had an idea. He still had the joke teeth. "I can make the princess laugh," he said. キッパーによい考えがうかびました。キッパーはまだジョークの

歯を持っています。
「ぼくがお姫様を笑わせられるよ」とキッパーは言いました。

- PG 8: The king was in the village. A girl told him a joke.
“That’s not funny,” said the king.
“That won’t make the princess laugh.”
王様が村に来ていました。女の子が王様にジョークを言いました。
「おもしろくないぞ」王様が言いました。
「それでは、姫は笑わん」
- PG 9: “Who’s next?” called the king.
“I am,” said a man.
“Oh no!” groaned the king. “Not another chicken!”
「次は誰だ？」王様が呼びかけました。
「私でございます」男の人が言いました。
「やれやれ！」王様がうなりました。「また、にわとりだ！」
- PG 10: The children went to the king.
“We can make the princess laugh,” said Biff.
“How?” asked the king.
子どもたちは王様のところへ行きました。
「私たちが、お姫様を笑わせられるわ」ビフが言いました。
「どうやってだい？」王様がたずねました。
- PG 11: The teeth went click, click, click. Everyone laughed and laughed.
“That will make the princess laugh,” said the king.
ジョークの歯が、カチカチカチと音を立てました。
みんなが大笑いをしました。
「これなら姫を笑せられるだろう」王様は言いました。
- PG 12: Kipper dropped the teeth.
A dog caught them and ran off with them in its mouth.
キッパーが歯を落っことしてしまいました。
犬がそれを拾い、口にくわえて走り出しました。
- PG 13: “Stop that dog!” shouted the king. “Stop that dog and get the teeth.”
Everyone ran after the dog.
“Get the teeth!” shouted the king.
「あの犬を止めよ！」王様が叫びました。「犬を捕まえて歯を取り戻すのだ」
みんなは犬の後を追いかけてきました。
「歯を手に入れよ！」王様が叫びました。

- PG 14: The dog was too fast. Nobody could catch it.
“Stop that dog!” shouted the king.
犬はあまりにもすばしこかったので、誰にも捕まえることができませんでした。
「あの犬を止めよ！」王様が叫びました。
- PG 15: The dog ran this way and that. People tried to grab it, but it was too fast.
“Get the teeth!” shouted Kipper.
犬は四方八方を走り回りました。
人々は取りおさえようとしたが、犬の動きが速すぎました。
「歯を取り戻して！」キッパーが叫びました。
- PG 16: The king ran after the dog. Everyone ran after the king.
The king fell over.
王様が犬の後を追いかけてました。人々が王様の後を追いかけてました。王様は転んでしまいました。
- PG 17: The dog saw a bone and it stopped.
Chip grabbed the dog and the dog dropped the teeth.
犬は骨を見つけて、立ち止まりました。
チップが犬をつかむと、犬は歯を落としました。
- PG 18: Kipper picked up the joke teeth. Everyone looked at them.
The teeth were broken.
“Oh no!” said the king.
キッパーはおもちゃの歯を拾い上げました。みんなが歯を見ました。歯は壊れていました。
「なんということだ！」王様が言いました。
- PG 19: The king put the teeth on a cushion. “What a pity!” he said.
“Now they won’t make the princess laugh.”
王様はクッションの上に歯を置きました。
「なんと残念なことだろう！」王様が言いました。
「これでは、姫を笑わせることはできませんまい」
- PG 20: The princess heard the noise. She looked out of a window.
She saw the king and she started to laugh.
お姫様が騒ぎの音を聞きつけて、窓の外を見ました。
お姫様は王様を見ると、笑い出しました。

- PG 21: The king had mud on his clothes. He had the teeth on the cushion. He looked so funny that the princess laughed and laughed.
王様の服は泥で汚れていました。王様はクッションの上に置かれた歯を持っていました。王様の姿があまりにもこっけいだったので、お姫様は笑いころげました。
- PG 22: The king looked at the princess.
“I’ve made the princess laugh,” he said. Everyone laughed and cheered.
王様はお姫様を見ました。
「わしが姫を笑わせたのじゃ」王様が言いました。
みんなが笑って喜びました。
- PG 23: The magic key began to glow. The magic took the children home. But nobody saw the children go. Everyone was laughing.
マジックキーが光り始めました。魔法の力は子どもたちを家に連れ戻しました。でも、子どもたちがいなくなるところは誰も見ていませんでした。全員が大笑いしている最中でしたから。
- PG 24: “What made the princess laugh?” asked Kipper.
“I don’t know,” said Chip, “but people laugh at silly things.”
「何がお姫様を笑わせたの？」とキッパーが聞きました。
「分からない」とチップが言いました。「でも、人ってばかばかしいことで笑うんだよ」

Christmas Adventure 「クリスマスの冒険」

- PG 1: It was Christmas Eve.
The children were excited, but Mum was hot and Dad was cross.
“Christmas is hard work,” said Dad.
クリスマス・イヴのことです。
子どもたちは興奮していましたが、ママはかっかして、パパはごきげんななめでした。
「クリスマスは大仕事だよ」とパパが言いました。
- PG 2: Dad put up some decorations. He wanted the children to help, but they didn't want to. They were watching television.
パパが飾りつけをしました。パパは子どもたちに手伝ってほしかったのですが、子どもたちはやりたくありませんでした。子どもたちはテレビを見ている最中だったのです。
- PG 3: Dad turned off the television.
“Oh!” said Kipper. “We were watching a good program.”
“It's time to help,” said Dad.
パパがテレビを消しました。
「あーあ！」キッパーが言いました。「いい番組を見ていたのに」
「手伝いの時間だよ」パパは言いました。
- PG 4: Just then, Wilf and Wilma came.
They had presents for Biff, Chip and Kipper.
“We can help later,” said Chip.
ちょうどその時、ウィルフとウィルマがやって来ました。二人はビフとチップとキッパーへのプレゼントを持っていました。「ぼくたち、後でお手伝いするからね」チップが言いました。
- PG 5: Biff and Chip had presents for Wilf and Wilma.
“Don't open them until tomorrow,” said Biff.
ビフとチップもウィルフとウィルマにプレゼントがありました。
「明日まで、開けちゃダメよ」ビフが言いました。
- PG 6: The magic key began to glow.
“It's time for a magic adventure,” said Chip.
“I hope it's a Christmas adventure.”
マジックキーが光り始めました。「魔法の冒険の時間だ」とチップが言

いました。「クリスマスの冒険だといいな」

- PG 7: The magic key took the children to the land of Father Christmas.
“Hooray!” said Wilf. “We can tell Father Christmas what to bring us.”
マジックキーは子どもたちをサンタクロースの国へ連れて行きました。
「やった！」ウィルフが言いました。「ぼくたち、サンタクロースに、何が
欲しいか伝えられるね」
- PG 8: The children were excited. They all wanted special presents.
“I want a new bike,” said Kipper.
“I want a new skateboard,” said Biff.
子どもたちは喜びました。みんなとびっきりのプレゼントが欲し
かったのです。
「ぼくは新しい自転車が欲しい」キッパーが言いました。
「私は新しいスケート・ボードが欲しいな」ビフが言いました。
- PG 9: The children rang the door bell.
They rang and rang, but nobody came to the door.
“That’s funny!” said Chip.
子どもたちはドアのベルを鳴らしました。
みんなは何度も何度も鳴らしましたが、誰も出て来ませんでした。
「おかしいぞ！」チップが言いました。
- PG 10: The children looked for Father Christmas, but he was not there.
There was nobody there.
“Where is everyone?” asked Wilma.
子どもたちはサンタクロースを探しましたが、いません
でした。そこにはまったく誰もいなかったのです。
「みんなはどこへ行ったんだろう？」ウィルマが聞きました。
- PG 11: The children were disappointed.
“It’s not fair,” said Chip.
“I wanted to ask Father Christmas for a computer.”
子どもたちはがっかりしました。
「不公平だ」チップが言いました。
「ぼく、サンタクロースにコンピューターを頼みたかったのにな」
- PG 12: The children looked for Father Christmas. They came to his house.
“May be he’s in here,” said Kipper.
子どもたちはサンタクロースを探しました。そして、サンタクロースの家
にやって来ました。
「もしかしたら、ここにいるかもしれないね」とキッパーが言い

ました。

- PG 13: The children went inside. An old man was asleep in a chair.
“It’s Father Christmas,” said Wilf. “Why is he asleep in a chair?”
子どもたちは中へ入りました。年とった男の人が椅子で眠っていました。
「サンタクロースだ」とウィルフが言いました。
「どうして椅子で眠っているんだろう？」
- PG 14: Biff looked at the date. “It’s the 25th of December,” she said.
“Father Christmas must be tired. He’s been at work all night.”
ビフは日づけを見ました。「今日は 12 月 25 日だわ」ビフが言いました。
「サンタさんは疲れているのよ。一晩中働いていたんだもの」
- PG 15: Suddenly, Father Christmas woke up.
“What are you doing here?” he asked.
“It’s Christmas Day. Did I forget to call at your house?”
その時、サンタクロースが目を覚めました。
「君たちはここで何をしているんだい？」とサンタクロースが聞きました。
「今日はクリスマスだね。私は、君たちの家に行くのを忘れたのかい？」
- PG 16: Father Christmas hadn’t put up his decorations.
“I’ve been too busy. It’s the same every year,” he said.
サンタクロースは、まだ、クリスマスの飾り付けをしていませんでした。
「わしは忙しすぎてね。毎年のことだよ」サンタクロースは言いました。
- PG 17: Father Christmas had no Christmas dinner.
“I didn’t have time,” he said. “Children want so many presents.”
サンタクロースには、クリスマスのご馳走がありませんでした。
「時間がなかったんだ」とサンタクロースは言いました。
「子どもたちが、すごくたくさんプレゼントを欲しがるのでね」
- PG 18: The children were sorry for Father Christmas.
They found a Christmas tree and put it up.
子どもたちはサンタクロースが気の毒になりました。
みんなはクリスマスツリーを見つけ、それを立てました。
- PG 19: They found some decorations and put them up.

“I haven’t had decorations up for years,” said Father Christmas.
みんなは、飾りの小物を見つけ、それを飾りつけました。
「わしはもう長いこと、飾りつけなんてしてなかったよ」サンタクロースが
言いました。

PG 20: Wilma and Chip made some strawberry jam sandwiches.
Father Christmas found some lemonade and some crackers.
ウィルマとチップがイチゴジャムのサンドイッチを作りました。
サンタクロースがレモネードとクラッカーを見つけました。

PG 21: Father Christmas put on his red coat.
“Ho! Ho! Ho!” he laughed. Everyone cheered.
サンタクロースが赤いコートを身に着けました。
「ホッ！ ホッ！ ホッ！」サンタが笑いました。みんなは歓声を上げま
した。

PG 22: “Thank you,” said Father Christmas.
“Most children just want things, but you’ve given me a good
Christmas.”
「どうもありがとう」と、サンタクロースが言いました。
「ほとんどの子どもたちは、物を欲しがるだけだ。だが、君たちはわしに
すてきなクリスマスを贈ってくれた」

PG 23: Just then, the key began to glow.
“Happy Christmas,” said everyone.
“Good bye,” said Father Christmas. “Thank you for everything.”
その時です、鍵が光り始めました。
「ハッピー・クリスマス」みんなが言いました。
「さようなら」サンタクロースが言いました。
「本当にいろいろとありがとう」

PG 24: The magic took the children home.
It was Christmas Eve again.
“What else can we do to help?” asked Chip.
魔法の力で子どもたちは家に戻って来ました。
またもや、クリスマス・イヴでした。
「他に何を手伝ったらいい？」とチップが聞きました。

The Go-kart Race 「ゴーカート・レース」

- PG 1: Wilma and Biff saw a notice. It was about a go-kart race.
Wilma had an idea. She told Biff about it.
ウィルマとビフは掲示を見ました。ゴーカートレースについてでした。
ウィルマはあることを思いつき、それをビフに教えました。
- PG 2: Biff and Wilma were excited. They told Mum about the race.
“We need a go-kart,” said Biff. “What about the old one?”
ビフとウィルマはワクワクしていました。二人はママにレースの事を話しました。
「ゴーカートが必要なの」ビフが言いました。「あの古いのはどうかしら？」
- PG 3: Mum went to the shed.
She found the old go-kart, but it was broken and rusty.
“Oh no!” said Biff.
ママは納屋に行きました。そして、古いゴーカートを見つけましたが、それは壊れ、錆びついていました。
「困ったわ！」ビフが言いました。
- PG 4: Biff told Dad about the race. Dad looked at the old go-kart.
“This one is broken,” he said. “But we can make a new one.”
ビフはパパにレースの事を話しました。パパは古いゴーカートを見ました。
「壊れているな」パパが言いました。
「でも、新しいのを作ればいいよ」
- PG 5: The mums and dads made a new go-kart. Everyone wanted to help.
Biff and Mum looked at the plans. Wilma helped her dad.
ママとパパが新しいゴーカートを作ってくれました。みんなもお手伝いをしたりしました。ビフとママは設計図を見ました。ウィルマは自分のパパのお手伝いをしました。
- PG 6: Mum painted the go-kart. Chip helped. He was good at painting.
“It looks brilliant!” said Biff.
ママがゴーカートにペンキを塗りました。チップがお手伝いをしました。チップはペンキ塗りが得意でした。
「カッコイイ！」ビフが言いました。

- PG 7: Everyone looked at the new go-kart. Biff wanted a go, but Mum said she couldn't. The paint was still wet.
みんなは新しいゴーカートを見ました。ビフが乗りたがりでしたが、ママが駄目だと言いました。ペンキがまだ乾いていなかったのです。
- PG 8: Mum took the children to a park. There was a hill in the park. It was a good place to try the new go-kart.
ママは子どもたちを公園へ連れて行きました。公園には丘がありました。新しいゴーカートを試すのに絶好の場所でした。
- PG 9: Wilma went first, but everyone had a go. Biff went last. "It's brilliant!" she said.
ウィルマが最初に乗り、つづいてみんなも乗りました。ビフが最後でした。「すごいわ！」ビフが言いました。
- PG 10: Wilma saw another go-kart. "It's Anneena," she said. "She's got a go-kart too."
ウィルマが別のゴーカートを見つけました。「アニーナよ」ウィルマが言いました。「彼女もゴーカートを持ってるわ」
- PG 11: Everyone looked at Anneena's go-kart. "It looks fast," said Wilma. "But I bet ours is faster."
"I bet it's not," said Anneena.
みんながアニーナのゴーカートを見ました。「速そうね」ウィルマが言いました。「でも、私たちの方が速いと思うわ」
「私はそうは思わないわ」アニーナが言いました。
- PG 12: Wilma and Anneena had a race. The go-karts raced down the hill. Anneena was in front.
"Come on!" shouted Biff.
ウィルマとアニーナがレースをしました。ゴーカートは競い合いながら丘を下って行きました。アニーナが先頭でした。「頑張って！」ビフが叫びました。
- PG 13: Suddenly, a dog ran in front of Anneena. Her go-kart crashed into a bush. Wilma crashed into Anneena.
突然、犬がアニーナの前に飛び出しました。アニーナのゴーカートは草むらに突っ込みました。ウィルマはアニーナに追突しました。

- PG 14: Everyone looked at the go-karts. Wilma's front wheels were bent. Anneena's go-kart was broken. Everyone was upset.
みんなはゴーカートを見ました。ウィルマのゴーカートの前輪は曲がっていました。アニーナのゴーカートは壊れていました。みんなはがっかりしました。
- PG 15: Chip looked at the broken go-karts. He had an idea. He told mum what the idea was.
"What a brilliant idea!" said Mum.
チップは壊れたゴーカートを見ました。チップには考えがありました。チップはそのアイデアをママに教えました。
「なんて素晴らしいアイデアでしょう！」ママが言いました。
- PG 16: The mums and dads made a new go-kart. They made one go-kart out of two. They put the front of Anneena's go-kart on the back of Wilma's. ママとパパ達は、新しいゴーカートを作りました。みんなは二台のゴーカートから、一台のゴーカートを作りあげました。アニーナのゴーカートの前の部分をウィルマのゴーカートの後の部分にくっつけたのです。
- PG 17: The children liked the new go-kart. They called it Silver Bullet.
"What about the race?" asked Biff.
"I bet Silver Bullet will win."
子どもたちは、新しいゴーカートが気に入りました。みんなは、それを銀の弾丸号と呼びました。
「レースはどうなるかしら？」ビフが聞きました。
「銀の弾丸号が勝つって、私、賭けてもいいわ」
- PG 18: It was the day of the race. Everyone was excited.
"Look at all the go-karts!" said Biff.
レースの日になりました。みんなは興奮していました。
「ゴーカートがたくさん。見て！」とビフが言いました。
- PG 19: Biff wanted to drive, but so did Wilma and Anneena. In the end, Mum tossed a coin and Anneena won.
ビフが運転したがりましたが、ウィルマとアニーナも同じ気持ちでした。結局、ママがコインを上ほうり投げて、アニーナが勝ちました。
- PG 20: It was time for the race. "One... two... three... go!" called the starter. "Come on, Anneena!" called Biff.

レースの時が来ました。「1...2...3...出発！」と、出発合図係が呼びかけました。

「アニーナ、がんばって！」ビフが叫びました。

- PG 21: The go-karts raced down the hill.
Everyone shouted and cheered. Anneena went fast.
Silver Bullet was in front.
ゴーカートは、丘を競争しながら下って行きました。
みんな、大声をあげて応援しました。アニーナは猛スピードで走りました。
銀の弾丸号は先頭にたっていました。
- PG 22: Anneena didn't win. Two go-karts went faster. Silver Bullet came third.
"Oh no!" said Biff.
アニーナは勝てませんでした。もっと速く走ったゴーカートが二台あったのです。銀の弾丸号は三番でした。
「あ～あ！」ビフが言いました。
- PG 23: Anneena was upset.
"I wanted to win," she said.
"Don't worry," said Biff. "Silver Bullet's still the best."
アニーナは気持ちがおさまりません。「私、勝ちたかったのに」アニーナが言いました。
「気にしないで」ビフが言いました。
「銀の弾丸号はやっぱり一番よ」
- PG 24: Silver Bullet did win a prize. It was the best-looking go-kart.
"Hooray!" everyone cheered. "We said it was the best!"
銀の弾丸号は、賞をもらいました。
それは、一番カッコいいゴーカート賞でした。
「やった！」とみんなが喜びました。
「これが最高だって言ったじゃない！」

The Shiny Key 「ピカピカの鍵」

- PG 1: Chip was watching television. The magic key was on the arm of the chair. Nadim came to play.
チップはテレビを見ていました。マジックキーは椅子の肘掛に置いてありました。ナディムが遊びに来ました。
- PG 2: Chip didn't want to play. He wanted to watch television. He wanted to watch a program about magpies.
チップは遊びたくありませんでした。テレビを見たかったのです。チップは、カササギの番組を見たかったのです。
- PG 3: Nadim wanted a magic adventure. Chip looked for the magic key, but he couldn't find it. Nadim helped Chip to look.
ナディムは魔法の冒険をしたいと思っていました。チップはマジックキーを探しましたが、見つけれませんでした。ナディムはチップが探すのを手伝いました。
- PG 4: Chip looked at the armchair. "I put the key on the arm of the chair," he said. Suddenly, he had an idea. Chip looked at the armchair.
「I put the key on the arm of the chair,」 he said. Suddenly, he had an idea. チップは肘掛け椅子を見ました。
「[ぼく、鍵を椅子の肘掛に置いたのに]とチップが言いました。その時、突然、チップはあることを思いつきました。
- PG 5: The children looked in the armchair. They found lots of things. Chip found Mum's missing ear-ring. "Mum will be pleased," he said. The children looked in the armchair. They found lots of things. Chip found Mum's missing ear-ring. "Mum will be pleased," he said. 子どもたちは肘掛け椅子の中を見ました。二人はいろいろな物を見つけました。チップはママがなくなったイヤリングを見つけました。「ママが喜ぶぞ」とチップは言いました。
- PG 6: Chip found the key. It was stuck to a toffee. "Yuk!" said Chip. "It's all sticky." Chip found the key. It was stuck to a toffee. "Yuk!" said Chip. "It's all sticky." チップは鍵を見つけました。鍵はキャラメルにくっついています。「うわっ!」とチップが言いました。「べとべとだ」
- PG 7: Chip told Mum about the armchair. He gave Mum the missing ear-ring. Nadim cleaned the key. He made it very shiny. Chip told Mum about the armchair. He gave Mum the missing ear-ring. Nadim cleaned the key. He made it very shiny. チップはママに肘掛け椅子のことを話しました。チップはママになくな

っていたイヤリングを渡しました。ナディムは鍵をきれいにしました。そして、鍵をピカピカにしました。

- PG 8: The children went into Biff's room. Biff looked at the key.
"Oh no! It looks very shiny," she said.
"I hope the magic still works."
子どもたちはビフの部屋へ行きました。ビフは鍵を見ました。
「わあ！ ぴかぴかになってる」とビフが言いました。
「まだ魔法が働くといいんだけど」
- PG 9: Suddenly, the key began to glow. It looked very bright.
The magic took the children into a new adventure.
突然、鍵が光り始めました。それはとても明るく光っていました。
魔法の力で子どもたちは新しい冒険へと導かれました。
- PG 10: The children were in a wood. Chip didn't like it.
The wood was dark and gloomy.
"Come on!" he said.
子どもたちは森の中にいました。チップは気に入りませんでした。
その森は暗く陰気でした。
「行こうよ！」とチップが言いました。
- PG 11: Suddenly, Biff saw something shiny. She picked it up.
"What a beautiful ring!" she said. "Somebody must have dropped it."
その時ビフは何か光る物を見つけました。ビフはそれを拾い上げました。
「何てきれいな指輪！」ビフが言いました。「きっと誰かが落としたのよ」
- PG 12: The children saw some soldiers. The soldiers saw the ring.
They grabbed the children.
"That ring is stolen," they said.
子どもたちは兵士たちに出会いました。兵士たちは指輪を見ました。兵士は子どもたちを捕まえました。
「その指輪は盗まれたものだ」兵士たちは言いました。
- PG 13: The soldiers took the children to the prince.
"We've found the thieves," they said. "Here's your ring."
兵士は子どもたちを王子様の所へ連れて行きました。
「盗人たちを見つけました」兵士が言いました。「どうぞ、あなたさまの指輪です」
- PG 14: "Here are the thieves," said the prince.

“What else have they stolen?”
“My watch was stolen,” said a man.
“My ear-ring was stolen,” said a lady.
「ここにいるのは、盗人たちだ」王子様が言いました。
「他に何が盗まれたんだ？」
「わしの腕時計が盗まれた」と男の人が言いました。
「私のイヤリングも盗まれたわ」と女の人が言いました。

- PG 15: A soldier took the magic key.
“Look at this shiny key,” he said.
“These children have stolen things. They must have locked them away.”
一人の兵士がマジックキーを取りあげました。
「このピカピカの鍵を見てください」兵士は言いました。
「この子どもたちはいろいろな物を盗んだのです。盗んだ物をどこかに隠しているに違いありません」
- PG 16: The soldiers took the children to a prison.
“Where are the stolen things?” they asked.
“Tell us, or we’ll lock you up.”
兵士たちは子どもたちを牢屋へ連れて行きました。
「盗んだ物はどこだ？」兵士たちは聞きました。
「答えろ、さもないとお前たちを閉じ込めるぞ」
- PG 17: Suddenly, a magpie flew down. It took the magic key.
“Stop that magpie!” called Biff. “It’s stolen the key!”
突然カササギが急降下してきました。そしてマジックキーをかすめ取ってしまいました。
「カササギを止めて！」ピフが叫びました。「鍵を盗んだわ！」
- PG 18: The magpie flew to the woods.
“The magpie is the thief,” said Chip. The children ran after the magpie.
Everyone ran after the children.
カササギが森へ飛んで行きました。
「あのカササギが盗人だ」チップが言いました。子どもたちは、カササギの後を追いかけてきました。みんなも子どもたちの後を追いかけてきました。
- PG 19: The magpie flew to a tree.
“Look in its nest,” said Chip. Nadim climbed the tree.
“Be careful,” called Biff.
カササギは1本の木に飛んで行きました。
「その巣の中を見て」チップが言いました。ナディムが木に登りました。

「気を付けて」とビフが叫びました。

- PG 20: Nadim looked in the magpie's nest. It was full of shiny things.
Nadim gasped.
"What beautiful things!" he said.
ナディムがカササギの巣の中を見ました。ピカピカした物でいっぱいでした。ナディムは息を飲みました。
「何てきれいな物ばかりなんだろう！」ナディムが言いました。
- PG 21: "You see!" said Anneena, crossly.
"We aren't thieves. The magpie took your things."
"Sorry!" said the soldier.
「ほらね！」と、アニーナが腹立たしげに言いました。「私たちは盗人なんかじゃないわ。カササギが、あなたたちの物を取ったのよ」
「ごめんよ！」と兵士が言いました。
- PG 22: Everyone was pleased.
"Here's my missing ear-ring," said a lady.
"Here's my watch," said a man.
みんなが喜びました。
「なくなったイヤリングだわ」女の人と言いました。
「わしの腕時計だ」男の人と言いました。
- PG 23: The prince gave the children a medal.
"The magpie was the thief," he said.
"Sorry, we thought it was you."
The magic key began to glow.
王子様は子どもたちに勲章を与えました。
「あのカササギが盗人だったのだ」王子様が言いました。
「すまなかった。私たちは君たちだと思った」
マジック・キーが光り始めました。
- PG 24: "Magpies like shiny things," said Biff.
"So it was a good job Nadim made the magic key shiny, after all"
「カササギはピカピカした物が好きなのね」ビフが言いました。
「何はともあれ、ナディムがマジックキーをピカピカにしてくれていて、よかったわね」